

第 10 期 松戸市緑推進委員会

第 12 回委員会議事要録

1. 日時 令和 2 年 2 月 26 日 (水) 10 : 00 ~ 12 : 00
2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館 5 階)
3. 出席者
 - 緑推進委員
柳井重人・平岡 考・木下 剛・小谷幸司・高橋 清・小嶋 功・高橋盛男
上野義介・石川 静枝・高橋 節・横山 元・森 令子・藤田 隆
 - 松戸市
米澤和宏 (みどりと花の基金事務局長)
関根真人 (21 世紀の森と広場主任主事)
 - 兼事務局 (みどりと花の課)
岸 秀一 (課長)・三末容央 (専門監)・北川茂和 (課長補佐)・稲吉かなえ (主査)
 - LAU 公共施設研究所 (松戸市緑の基本計画策定委託受託者)
牧野・吉岡
- ※ 事務局より本委員会の成立について、委員 14 名中 13 名の出席により成立している旨報告あり。
- 傍聴 1 人
4. 議事次第
 - 1 開会
 - 1 議事
 - 1) 議事要録の確認について
 - 2) 緑の基本計画策定について
 - 3) 緑と花のフェスティバル 2020 の参加について
 - 4) 第 9 回オープンフォレスト in 松戸の後援について
 - 5) その他
 - 1 連絡事項等
 - 1 閉会

議事 1) 議事要録の確認について

会長

事前に送付した議事要録について異議はあるか。

事務局

事前に送付した議事要録について、一部発言者名の間違がありましたので訂正している。

会長

では、当該箇所を訂正した上で議事要録としてよろしいか。

— 承認 —

議事 2) 緑の基本計画策定について

会長

緑の基本計画策定のスケジュールについて、事務局の説明を求めます。

事務局

事務局より今後のスケジュールについてご説明します。

先に、事前に送付している基本計画原案（案）についてですが、本日、可能な限り最終案に近い状態で委員の皆さまに提示をしたかったが、前回の委員会でいただいたご意見を反映させることに相当の時間を要していること、また、こうした作業に合わせて、個々の内容や表現方法についても、今一度事務局で精査し、項目によっては加筆等によりかなり表現を変えている箇所もあること、また、市内部の総合計画や都市マスタープランとの整合、関係課との最終調整が終わっていない状況にあること、こうした理由からまだ 8 分程度の案となっている。

スケジュールについてですが、第 10 期委員会では、任期の 6 月末までにあと 2 回、5 月と 6 月に 1 回ずつの委員会を予定している。この 2 回の委員会では、緑推進委員会に対する市長からの諮問に答える形として、基本計画の策定に向けて、委員会の意見を答申および提言書としてまとめていくことになる。

ただし 6 月末に行われる第 10 期の最後の委員会では、市長に直接答申書を渡すセレモニーを伴うので、答申書の中身についての審議は、実質 5 月に開催する委員会 1 回だけとなる。

その 5 月の委員会までに、事務局では「答申および提言書」の案を作成する。この時に、先ほど 8 分と申し上げた基本計画についても、概ね原案という形でお示しできるものと考えている。基本計画の原案については、この後 LAU から説明させていただくが、先ほどのお話のとおり、変更箇所が多岐にわたっているので、細部につきましては、お時間がある時に今一度ご確認をいただき、何かあればこれまでどおり個々に事務局まで申し出ていただきたい。

5 月の委員会で案としてお示しする「答申および提言書」については、これまでに委員の皆さまからいただいた基本計画へのご意見をあらためて抽出した上で、基本計画原案の中でこんな表現で反映していますということが目に見えるように作り込みたいと思っている。

また第 10 期の委員会では、部会として「みどりのサロン部会」を立ち上げ、委員の皆さまに活動をいていただいた。この部会の活動についても取りまとめ、提言の中で書き込んでいく。

「答申および提言書」の案の作成にあたっては、会長やサロン部会の委員にご相談させていただく機会が必要になると思われ、その際はお時間をいただきたい。

計画の中身の議論の前に、ここまでで何かご不明な点等があればご質問をいただきたい。

会長

今日の議論により成案に近いものがつくられ、次回委員会で提示され、それが最終の議論となる。6 月以降は意見の反映は難しいので、今日は活発な議論をお願いしたい。また、委員会の限られた時間で言えなかった意見は次回の議論に反映できるよう、委員会の終了後にメールでフォーマットを送付するので答えてほしい。郵送でもよいのでいただきたい。

委員

スケジュールについて、当初の予定とどれほど遅れているのか。

事務局

1~2 か月程度の遅れはあるが想定範囲内であり、来年 3 月の策定には充分間に合う。

会長

みどりの基本計画の原案（案）について説明を求める。

LAU

事務局からの話にもあったとおり、前回の委員会で出た意見を受け、大きく変更がなされている。主な変更箇所を簡潔に説明させていただく。

- ・計画の構成については目次の後に配置することで、全体像をつかみやすくした。
- ・松戸市のみどりの現況については、みどりの立体感を出すために地形の断面図と画像で表現している。

- ・みどりの将来像は「みどりと暮らす豊かさ」の将来イメージをイラストを使い表現した。
- ・目標は基本方針毎に設定したが、目標の内容については、今後事務局と調整する。
- ・施策の展開の冒頭で基本方針の関係図を再整理した。
- ・(公財)松戸みどりと花の基金に関する記載を充実させた。
- ・(仮)フォーラム・ネットについてはサロン部会で引き続き検討するので、今後記載内容を充実させる。
- ・基本方針4は、「遊ぶ」「集う」「食べる」「収穫する」「育てる」「散策する」「くつろぐ」「体を動かす」「学ぶ」「働く」に分類して、みどりのあるライフスタイルを画像とイラストを使い分かりやすいように表現している。
- ・重点施策とグリーンインフラについては、一目でわかるように整理している。
- ・計画の実効性を高めるために、重点施策については目標となる指標を書いている。指標の内容や数値については、今後事務局と調整する。

会長

全体的に分かり易く構成されているものと感じている。意見はないか。

事務局

表紙の副題として表記している「みどりと暮らす豊かさが実感できる街・まつど」についての意見をいただきたい。前回の「緑の基本計画」は「暮らしが自然と調和する緑のふるさと・松戸」だった。

会長

「みどりと暮らす豊かさ」は松戸市の「みどりの市民憲章」の基本理念の冒頭にあり、それを「みどりと暮らす豊かさが実感できる街・まつど」として「みどりの将来像」の基本的なコンセプトとした。この文言が「みどりの基本計画」を一言で表しているかの意見をいただきたい。

委員

「街」の漢字に若干の違和感がある。「街」は都市化し発展した街をイメージする。基本計画では「まち」をひらがな表記にした方がよいのではないか。

会長

「みどりと暮らす豊かさが実感できる街・まつど」の文言はよいか。

委員

好みの問題かもしれないが、「みどりと暮らす豊かさが」ではなく「みどりと暮らす豊かさを」がよいのではないか。

会長

私たちが「豊かさを」実感できる。「街」か「まち」、「まつど」か「松戸」。

事務局

事務局でも検討したが、バランスで選んだ。

会長

暫定的に「みどりと暮らす豊かさを実感できるまち」として、「まつど」は必要か。

委員

キャッチフレーズはシンプルで、サイズが大きくなっている傾向にあり、「みどりの基本計画」を小さくし、キャッチフレーズを大きくした方がよい。

将来像のイラストを表紙に敷いてはどうか。写真ならば21世紀の森と広場の水辺で行われる「どこでもシアター」の風景はどうか。

会長

「みどりと暮らす豊かさが実感できる街・まつど」のイメージを前面に分かり易く表現する。可能であれば、次回は表紙のイメージも提示してほしい。

委員

今の「みどりと暮らす豊かさが実感できる街・まつど」は8割の自治体で使われている一般的なもの。例えば「みどりと暮らして豊かになる！」のように変えた方がキャッチー。

委員

「みどりと暮らす豊かさが実感できる街・まつど」は長いので「みどりと暮らすまち・まつど」と短く大きくしては如何か。

委員

「豊かさが実感できる」は言い訳っぽく感じる。

会長

「豊かさ」は入れたい。「みどりの市民憲章」の基本理念を検討する過程で、当時の緑推進委員会は「みどりと暮らす豊かさ」を大切にしようということになった。「豊かな緑」ではなく「その中で暮らす豊かさ」を重視している。

委員

「みどりと暮らす豊かなまち・まつど」ではいかがか。

会長

みどりの市民憲章を生かすなら「みどりと暮らす豊かさを大切にするまち」でもよいが。

委員

「みどりと暮らす豊かさを育む」。

高橋節委員

「実感」を変えてはどうか。

会長

「暮らす豊かさ」は外さない方がよいのではないか。ここまで候補に挙がったものも含め、事務局で再度検討をしてほしい。

委員

生き物について、生物多様性の理念が書き込まれてよかった。松戸市の環境政策課が行っている自然環境調査で鳥の調査を行っているが、基本方針3の「市民参加によるモニタリング」の部分で触れることができないか。みどりの構成要素として生き物があるのは忘れられがちで、例えば家庭菜園でナスやキュウリが実を結ぶのは虫の働きがあつてこそ。

事務局

記述については検討する。

会長

庁内会議では検討されるのか。

事務局

現在、環境政策課では「環境基本計画」を策定中であり、整合を図る中で検討する。

会長

「環境基本計画」は、生物多様性地域戦略の要素を組み込んだものになるのか。

事務局

先日、「環境基本計画」の原案が示され意見照会があつたが、その中では見て取れなかった。

委員

松戸市は生物多様性にあまり熱心ではないのか。

委員

市民の普段の活動で得られるデータを集めて、環境部と共に市民参加による生き物調査の仕組みを検討したが、実施までには至らなかった。

委員

生物多様性については環境セクションで行うということか。

委員

松戸市では希少種の保護などの窓口はない。

会長

委員から見て「みどりの基本計画」に入れるべき施策の提案をいただきたい。学校ビオトープや公園のエコアップについて、例えばバッタが住むような粗放的管理にするなどの提案があれば、「みどりの基本計画」で受け止められる部分や、環境政策への働きかけができるかもしれない。

委員

「グリーンインフラに関連する施策の推進」としてまとめられている中に、「生態系ネットワークの形成」についての記述があるが、「生態系ネットワーク」という文言は基本計画の本文にあったか。

事務局

「生態系」の記述はあるが「生態系のネットワーク」の記述はない。

委員

これをみどりでやっていく意思があれば「みどりの基本計画」にきちんと書くとよい。

事務局

「生物多様性」については、本来は環境のセクションで取り組むべきと考えるが、緑のセクションとしてやってきたこと、やっていることも多分にあることから、本市の生物多様性の核となる「21世紀の森と広場」と関連付けて、コラムとして記載することとした。その中では、豊かな自然の状態を的確に把握するためのモニタリング調査や普及啓発、外来種対策など、実際の取り組みも記載している。

会長

「グリーンインフラに関連する施策の推進」としてまとめられているそれぞれの推進事項が、本文のどこに記載されているのかをわかるようにできないか。

LAU

その整理はしたいと思っている。

会長

その上で更に書き込めることはあるか。

委員

コラムの生物多様性の記述について、SDGs から展開し松戸に至るストーリー性のように、「みどりの機能」に続き「グリーンインフラ」があるので、この後に「生物多様性とは」と「都市における生物多様性」を抱き合わせで記載してはどうか。

LAU

国土交通省の資料のグリーンインフラの概念は「防災・減災」「地域振興」「環境」がそれぞれ関連するものとして捉えられている。「グリーンインフラに関連する施策の推進」のまとめの中では、表現を若干変えているが「気候変動への対応による防災・減災」「地域の活性化・賑わい創出」「生態系ネットワークの形成」の3つにそれぞれ対応させている。「環境」の中に生物多様性が含まれると考えるが、更に分類して書き出す方法もある。

委員

グリーンインフラを進める上では、都市と生物多様の環境は共生共存であることがベースでなければならない。可能であれば先に説明が欲しい。

LAU

「環境」ではなく「生物多様性」の文言に入れ替えることはできるが、検討する。

委員

国土交通省では「グリーンインフラ」に「生物多様性」を正面切って位置づけていないが、環境省はそうではない。でもそれに捉われることなく、松戸市は松戸市なりに書き込んでよいのではないか。

会長

書き方を工夫して「生物多様性」の重要性がわかるように書いてほしい。

委員

「施策の展開」の記載はボリュームもあり、内容も充実していると感じたが、計画の実効性を高める部分の書きぶりが物足りなく再検討がほしい。計画の推進体制の主体や仕組みは羅列されているが、最も重要な進行管理と重点項目をどう設定しPDCAで回していくか、主体が重点にどう関わっていくかを見せるような書き方の方が5年後10年後の目標設定がしやすく、見えやすくもなるのではないか。市民から行政に至るまで、それぞれの役割や機能が書かれてはいるが、優先度や分野横断的な部分、具体的数値指標を設定した場合にどう関与するかが見えない。

会長

どのように工夫できるか。

委員

重点施策の目標部分に主体がどう関わり、仕組みや活用がどう働くかを盛り込みたい。

会長

アクションプラン的に「誰が」「どこで」「お金は」のように、「誰が」として、それぞれの主体を入れて見える化できないかということだった。

委員

それはグリーンインフラにも言えることで、国土交通省は庁内の複数の課に跨る施策や事業の取り組みを推奨しており、例えば、生態系ネットワークの形成を環境セクションと共に行うことが書かれていればチャンスは広がる。

会長

「グリーンインフラに関連する施策の推進」に「取り組みを評価し支援する仕組みづくり」とあり、「みどりの市民力のネットワーク」の項目で(仮)フォーラム・ネットのイメージが描ければ、計画の推進体制や支援の仕組みを考える上で、イメージがしやすくなる。

委員

ここにネットワークのコアの部分をイメージし、共存型で重点施策を進める上で主体としてどのように関わるのか、それをどう表現するのかを現在議論している。

委員

みどりと暮らす豊かさの具体的なイメージは非常に分かりやすくてよいと思う。この部分は基本方針4で詳しく書かれているので、イメージからそれぞれの施策へ飛べるようにページ表示をしてはどうか。

「みどりと暮らす豊かさ」の「食べる」「くつろぐ」「集う」などのワードがカラーであれば、絵の下にある「キッチンカーや屋台が出店したオープンカフェ」の枠取りをそのワードに対応した色にする。あるいはSDGsのアイコンのように関係するものをのせる。絵は分かりやすいが言葉が多く、どれがどれと対応しているかを分かりやすく整理したい。「季節の移ろいを感じながら楽しむジョギング」が主に「体を動かす」のキーワードに対応するということが分かれば、より分かりやすいと思う。

会長

よい意見だが、二つ被る場合もある。

委員

専門家会議では、イメージのボリュームが大きすぎるので、見開き1枚程度にシンプルにして表現してはどうかという意見があった。

みどりと暮らす豊かさの分野キーワードも10個では多すぎるので、4つか5つに分類すればアイコンにしても使いやすくなる。基本方針4以降も構成は変えなくてもよい。

委員

市の地形の断面に写真が載せてあるが分かりにくいと感じる。平面地図上の方がわかりやすいのではないか。

会長

松戸の特徴的な地形を表現するのは断面がよいということで、このような表現になった。

委員

街歩きをしていると松戸市民は高低差を自覚していない人が多いと感じる。断面で表現することは悪くない。

委員

これでよいと思う。

委員

確かに高低差は分かるが、あまりにも実態よりみどりが多く表現されており、現況というより希望に近いものに映る。

会長

現況と対応した地形的な構造と、そのみどりで何が行われているかをうまく表現してほしいというリクエストに対応している。一般的には緑地配置の平面図から線を引っぱる方法となる。みどりの現況はこれでいいのではないか。他にはないか。

委員

緑被分布図が見にくいといつも感じている。

委員

断面表現の見開きに対応するエリアが平面図上のどの辺りかを、キーマップのような形で示す方法はあるかと思う。

会長

みどりの現況は松戸の特徴的なみどりと人々の暮らしであり、見開きページ毎にテーマをつける方法もあるがどうか。

委員

複雑になるので、あまり説明しすぎない方がよい。

事務局

再度検討する。

委員

基本計画はいろいろな方に見てほしい。特に若い人・子育て中の方に見てもらうには、開いた最初の目次の部分を見ると敬遠されそうなので、表紙の次ページに中で使われているようなイラストを入れてもっと柔らかい印象にしてはどうか。手に取ってみたいくなるような作り方をした方がよい。トワイライトカフェの写真は現状と違うので差し替えた方がよい。

会長

「みどりの基本計画」を通読し計画の意図を分かってもらうことは実際には難しい。A4判見開き8ページ程度の概要版がよくあるが、専門家会議では、広告代理店やデザイナーがつくるよ

うな格好の良いものはできないかとの意見が出された。内容全てではなく、最も大切なことをピンポイントで伝えたい。「みどりの基本計画」の認知度は非常に低いことから、伝えるために別途プロモーションのツールを使えないか。以前、「子どもみどりの基本計画」の提案もあったが、コンセプトブックやスタイルブックのイメージではどうか。

委員

他で「子どもみどりの基本計画」を見たことがあるが、「現状」と「何がしたい」が書かれていた。

会長

できれば予算化され、フォーラムと共にできればよい。デザイナーに依頼やコンペを開催する意見も出ていたが、手に取って見てもらうことが大切。

委員

みどりの配置方針図はカラーであれば目を引くものとなる。また凡例の表現が膨らみわかりやすくなったが、具体的施策として、どの頁に対応しているのかわかるようにできないか。

LAU

どの頁に対応しているかのガイドをつけることは可能だが、出現数が多くなる。

委員

「計画の基本方針と目標」の「目標と具体的な指標」については、できれば緑被率のような定量的な指標と、アンケートのように市民がどう実感したかのような定性的満足度を一つずつ併せて載せるとよい。

どのように伝えるかについて、知ってもらうための市民とのファーストコンタクトの方法として、「子どもに対して」、「40 歳代以下の紙媒体を見ない大人に対して」、「50・60 歳代の紙媒体に頼る大人に対して」、それぞれアクセスするためのインターフェースをどうするかを真剣に考えなければならない。素晴らしい計画をつくっても市民に知ってもらえなければもったいない。少ない予算でできる方法を考える。プロモーションは本気でやらないとだめ。

会長

みどりのあるライフスタイルのプロモーションの展開にブックレットの制作とあるが、他にもいろいろな方法が考えられる。

委員

将来のイメージのイラストはコンテンツとして使える。

委員

目標として書かれている「みどりをこれ以上減らさないようにします」とあるが、現状は減少しているが、「みどりを増やします」のように右上がりの目標にした方がいいのでは。

会長

これ以上減らさないようにすることが現実。例えば緑被率を 1%増やすには相当の土地を緑地にしなければならない。市全体の面積の 1%はかなりの面積となる。

目標にある「みどりと花の基金の賛助会員を増やす」は、「みどりの市民力」を豊かにするという大きな目標に対して指標が細かすぎる。大切な箇所なので専門家会議で精査する必要がある。本日の「みどりの基本計画」についての議論はこれまでとする。冒頭に述べたように、今日の議論に対する意見や細かな気づきを事務局へ寄せていただきたい。

議事 3) 緑と花のフェスティバル 2020 の参加について

松戸みどりと花の基金

今春も「緑と花のフェスティバル 2020」の開催を予定している。

- ・目的…自然に親しみ、緑の恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむことを目的として、市民・緑化団体・行政が一体となり緑の祭典を開催する。

- ・テーマ…「子どもたちの夢とあそびを受けとめるみどりをいっぱいにします」(松戸みどりの市民憲章から引用)
- ・日時…令和2年4月29日(水)(祝:昭和の日) 午前9:30~午後3:00(雨天決行)
- ・場所…21世紀の森と広場 つどいの広場
- ・主催…松戸市・公益財団法人松戸みどりと花の基金の共催
- ・主管…緑と花のフェスティバル2020実行委員会
- ・後援…松戸市造園業協会、松戸市庭園業組合、松戸市花卉園芸生産組合

現在国内における新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、市では対策本部を設置し情報収集に努めている。結果2月21日現在では2月、3月のイベントはすべて中止となり、4月以降のイベントについては3月上旬に方針を固めたいとしていることを踏まえ、開催如何は3月中旬までには決定をしたいと考えている。

事務局

緑と花のフェスティバルにつきましては、本委員会も毎年参加しており、今回も里やま応援団や緑のネットワーク・まつどのご協力をいただき、みどりのスタンプラリーを実施したいと考えている。

本日の委員会で、あらためて参加についてのご承認をお願いしたい。合わせて 緑推進委員会の会長から里やま応援団へ協力の依頼をすることについても、承認をお願いしたい。

会長

3月中旬に開催が決定された場合が前提となるが、緑推進委員会がブースを設置し里やま応援団、みどりの行動会議と共に緑の普及啓発に努めるため、フェスティバルに参加することとしてよいか。

— 承認 —

会長

では、緑推進委員会としてブースを設置し、他団体と協力しスタンプラリーを行うことにする。また、会長名で他団体への協力要請を行う。開催が決定されたら例年通り委員の協力をお願いしたい。

事務局

毎年スタンプラリーで景品を出しているが、相応のものがあれば提供をお願いしたい。

会長

例えば景品購入のための寄付金、緑に関するもの、子どもが喜びそうなもの、家庭用雑貨があれば協力をいただきたい。

議事4) 第9回オープンフォレスト in 松戸の後援について

みどりと花の課

第9回オープンフォレスト in 松戸のご案内をします。

ここ2年は花の開花の時期と合わせて4月に開催していたが、実行委員会での話し合いの結果、来年度のオープンフォレストは5月開催に戻し、5月16日(土)から24日(日)の9日間で開催することとなった。市内18箇所の森の公開を予定している。

オープンフォレストの開催にあたっては、毎年、本緑推進委員会が後援をしているので、今回も後援をお願いしたい。

会長

普段は入れない民有樹林地の公開に、例年2,000~2,500人位が遊びに来ている。このような状況下であり、5月開催にして良かったかもしれない。

緑推進委員会が松戸市の緑について調査や審議を行っていることや、こうした緑の活動のバツ

クアッパしていることを分かってもらう機会が増えることは、我々委員にとっても、活動している団体にとっても力となる。第9回オープンフォレスト in 松戸の後援を承認してよいか。

— 承認 —

会長

他に議事は無いようであり、審議はここまでとする。

—— 傍聴者退出 ——

■ 連絡事項

事務局

7月からの「第11期松戸市緑推進委員会の委員募集」についてお知らせする。

松戸市緑推進委員会は、学識経験者4名以内、関係団体を代表するもの5名以内、市民6名以内の合わせて15名以内の委員で構成することが規則により定められている。

うち市民委員については、公募により選考された皆さまにお願いしているが、第11期の委員募集については4月1日号の広報まつどに募集記事が掲載される。

選考の際のレポートのテーマについては、市民憲章の一つである、「みどりと暮らす豊かさ」と関連付けて、「みどりのある暮らしについて」とした。

応募期限はGWの連休明けの5月7日（木）となっている。

現10期の市民委員の皆さまにおかれましても、是非応募していただければと思っている。

選考は次回の5月の委員会終了後に行う。審査は、会長および一部委員にもお願いさせていただくので、委員会終了後にお時間をいただきたい。

21世紀の森と広場管理事務所

新型コロナウイルス感染拡大に伴うイベント等の中止についてお知らせする。当公園においては3月予定していた「和太鼓」「みどりの講習会」「観察会」等12講座を中止する。土日祝日開催の湿地の観察会や自然観察ガイドは、観察員がマスク着用の上実施している。土日限定のパークシアターの上映は中止。4月以降は今後の状況を見て判断をしていく。

《千葉大学園芸学部の調査研究発表》

3/3～3/6にかけて、松戸市役所新館連絡通路にて、21世紀の森と広場の樹林地の保全・活用について千葉大学園芸学部の調査研究の成果をポスター等で掲示する。自然環境・生物多様性に関する調査、つどいの広場で竹を用いた作品による管理作業の風景化、みどりの里での剪定枝の有効活用について紹介する。

会長

3/20（金・祝）午前は、千葉大学園芸学部百周年記念ホールにて三つの研究チームによりポスターセッションを行うので見ていただきたい。また、午後は千葉大学公開研究発表会を予定しているが、新型コロナウイルスの影響で未定。開催が決まれば連絡をする。

本日の委員会はこれで終了する。次回の委員会は決まり次第お知らせする。